



2021年12月26日送年感謝礼拝

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

【人生を救い回復させる力の御名イエスキリスト】

説教者: 鄭南哲牧師

聖書本文: 使徒の働き3章1-10節・暗唱聖句: 使徒の働き3章6節

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！良いお年を迎えて下さい！

クリスマスの一週間はいかがお過ごしでしたか。寒波によりかなり寒くなりそうです。特に今週年末年始休みに入る前のお仕事も色々とお忙しくなるかと思われませんが、どうかみなさんの心と体が守られ、生活の営みが守られ祝福され、残されている今年もすべて感謝で有終の実を飾ることができますようにイエスキリストの御名によって切にお祈り申し上げます！特に先週主日午後にはアワナの各クリスマス会から始め、夜には三重牧場のクリスマス会も、昨日はオハイオ牧場のクリスマス会、本日昼にはひかり牧場のクリスマス会と明日のタイ江南牧場のクリスマス会が続く予定となっておりますが、今年もクリスマス会の為、共に良く準備し、献身的に仕えて下さったアワナの先生たちから、各牧者たちや牧場家族に至るまでその愛の労苦に心から感謝し、主が豊かに報いてくださるようにお祈りいたします。本日は2021年最後の送年感謝礼拝として捧げますが、今年もコロナ禍の中にあっても共に全能なる神の御手の中今日まで守られ、導かれて一緒に来られた教会の信仰家族の存在に心から感謝しております。神の栄光を現す存在として、キリストの愛の管となり、共に捧げ、共に仕えて下さった皆様に心から感謝いたします！

<今日の本文>

ある方が訪ねてきて自分の精神状態をこのように言いました。“私は自分が何をしたいのか、何がほしいのかよく分かりません。いや、自分がだれなのかよく分かりません。これからどうやって生きるべきなのかも分かりません。私は一人であるのも耐えられません。ですから、たえず、愛情を求めてさまようのです。そしては、愛する人に見捨てられないかいつも恐れます。対人関係においては波のように揺れ動く時が多く、どこに飛んでいくか分からないボールのように予測しがたいです。時には、お金を無駄に使ってしまったり、後に後悔します。そういうわけで、お金も貯める事がなかなかできません。情緒(じょうしょ)の面においてはいつも不安を感じ、その不安がひどくなると、自殺の衝動をも時々感じています。ですから、いつもだれかに頼らなければいけない依存的人生を生きているような私です。”みなさん！精神医学でこのような症状の病名を‘境界線性格障害(borderline personality disorder)’だと言われます。人々の中で約2-3%がこのような症状がひどく表れてカウンセラーや、医者に訪ねますが、実際、このような症候群を軽く感じながら生きている人々が少なくないということです。病名がとても興味深くないでしょうか。‘境界線性格障害’は本来の意味は神経症と精神病の境界線に位置するという意味から由来があるそうです。しかし、信仰の家族のみなさん！しばらく振り返って考えて見れば、実は人はだれでも自身がどうしてもできない状況におかれたり、自分をよく分かるようで、わけ分からない時も、隣人に近づくこともできず、遠ざけることすらできないいわゆる境界線上の不安を感じていませんか。教会に通いながらまともに信仰生活をすることもなく、かといって教会の必要性を否定することでもない境界線上のクリスチャンの方々も少なくないと思います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！私はまよわず、いつもそのような人々にイエスキリストを紹介したのです。イエスキリストには力があり、イエスキリストにはまことに癒しと回復があり、イエスキリストには人生が変わる希望があり、イエスキリストには満足と愛と赦しと救いがあるからです。

今日の聖書に出てくる体も心も苦しんでいたある人物が出ています。生まれつき足の不自由な人で毎日人々に運ばれて、宮に入る人たちから施しを求めするために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた人でした(2節)。

生れてから足が動かず歩けない人であったため、周りの助けがなければ何も出来ないと無力を感じ、他の人々の助けに依存しながら生きていた人でした。使徒の働き4章22節によると、彼はおよそ生まれから40年間ずっと足が不自由でできないまま生きていた人であることが分かります。彼は人生の絶望というのは何かを十分体験し、いつも飢え乾き、施しを求めなければ生活が出来なかったため、今日の教会のような聖殿の門の前に毎日運んでもらって、座り込んで聖殿に入る人々からお金の施しを求めていたとてもかわいそうな人生でした。何よりも残念だったのは、実は彼はだれよりも聖殿の一番近くに住んでいたにもかかわらず、聖殿に入ったことがなく、まったく神様との関係のない生活をしていた人でした。彼は一度も聖殿に入ったこともなく、そして聖殿に入る人たちのみならず、礼拝をうける神様とはまったく関係のない生活でした。彼は町の人々のみならず、神様とも断絶(だんぜつ)された人生を送っていた孤独な人でした。もしかしたら、彼自身はこんな体で、こんな施しを求める貧しい者で、こんな汚い服を来て、悪臭(あくしゅう)がひどく鼻をつくのに、神の宮に入る資格なんかないのではないかと思い込んでいたかも知れません！

彼は“教会って生活に余裕がある人が行くところで、ぜいたくだぞ。私のような何も出来ないやつは神様に決して近づけない。”と思ったかも知れません。自分のように病気の人で、人々だけではなく、神様さえも忌み嫌われていて存在であり、人生ではないかと思ったかも知れません。

しかし、愛するみなさん！ そんな彼がイエスキリストの御名を紹介された瞬間おどるべき出来事が起こります。 いったい彼に何が起こったのでしょうか。40年間ほどずっとすわったままこじきをする生活をしてきた彼が、「8踊り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり飛び跳ねたりしました！」まっすぐに立ち上がり、踊り上がって、歩き出したのです。つまり癒されたのです。ずっと彼の人生を縛っていた根本的な問題が解決されました。彼に今まで経験したことがない新しい力を得たのです。彼はこれから自分の力で生きる希望が与えられました！それだけではありません。8節後半には、「神を賛美しつつ、二人と一緒に宮に入って行った。」癒された後、彼はうまれて初めて、神の宮聖殿に入りました！神を賛美しながら、聖殿に入りました！いままで神様とは関係がなかった彼が神様を賛美し、そして神様を礼拝し、聖殿の中にいる人々とともに交わることができたのです！彼はもう孤独な人ではありませんでした！ どうしてこんなことが可能だったのでしょうか。

キリストの弟子の二人、つまりペテロとヨハネがイエスキリストの御名を紹介したからであります！

愛する信仰の家族のみなさん！ クリスチャンとしての私たちの特権の一つは何ですか。私を救ってくださったイエスキリスト！私の人生を新しく造り変えてくださったイエスキリスト！私の人生において救いと希望と力になるキリスト御名を紹介することであり、主イエスキリストと出会う事はないでしょうか。 今日私たちもどうすれば、ペテロとヨハネのように人の人生を変える力あるイエスキリストの御名を通して、我らも力強い信仰の生活をする事ができるでしょうか。 三つのポイントでみなさんとともに考えて見たいと思います。

① 私たちもイエスキリストの御名によって祈る事をいつも身につけなければなりません。

今日聖書の本文ではペテロとヨハネという主の弟子を通して表れたその驚きの力の源は彼らがいつも主の前にささげた祈りにある事が分かります。本文の1節ではこのように書かれています。「ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。」ここで‘祈り’という言葉が使徒の働きの中で4回目に出ている事がわかります。（「いつも心を一つにして祈っていた。（祈りに専念していた）(1:14)」、「彼らはこう祈った。(1:24)」、「彼らはいつも、使徒たちの教えを堅く守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。(2:42)」など使徒の働き全体では‘祈り’という言葉が32回も続けて登場してます。

なぜでしょうか。御言葉を通して働いておられる聖霊の神様は祈りの御霊だからです。なので、初代の教会の人たちは懇切に祈りました。熱く祈りました。初代教会の信仰の家族は御言葉といつも集まっている時、共に祈る教会であり、散らされても、各自祈る事を忘れていなかったクリスチャンたちでした。

彼らは宮に何をしに行ったのですか。そうです。祈るためです！ 当時敬虔なユダヤ人たちは一日三回時間を決めて祈りの時間を持ちました。イスラエルの時間に6時間をたせば、こんにち私たちが使っている時間と同じになります。ですから3時だと朝9時、6時だと正午12時、9時は午後3時になるのです。

ところが、ペテロとヨハネが祈りの時間に宮にのぼって行った時間は何時でしたか。1節に「午後三時の祈りの時間に」、イスラエルの時間では9時つまり、今日の午後3時でした。ユダヤ人たちが一日中一番祈りたがらない時間帯は午後の3時でした。 なぜならば、午後3時だといえば、昼食後、まだ暑い時だから何もせずひたすら眠たくなる時間だからです。

しかし、みなさん！ ペテロとヨハネはその時間に祈るために宮に上って行ったと書かれています。ここで何を知る事ができますか。彼らにはすでに祈りの習慣が見に着いていたということです。私は私たちが一生生活しながら、身につくべき習慣の中一番きよい習慣があれば、それは祈りの習慣だと思います。この祈りの習慣がしみこまれていたため、祈りをささげに行く彼らに予想もしなかったすばらしい力も体験し、大胆にイエスキリストの御名を伝える力さえも得られたのです。

愛する神の家族のみなさん、ここで祈りについて大事な一つを学ぶことができますでしょう。祈りは何か問題がある時、困っている時だけ神様に求めることではないと言う事です。 そのようになると、却って祈る事が無い時が平安な時だと思ひ、祈らないのはまるで祝福を受けているかのように考え込んでしまいます。しかし、それは大間違いです。

祈りの定義はみなさんも御存知のように神様との会話をすることであり、交わる事です。神様の御心を探ることでもありますので、祈ってないと言う事は神様との関係がうまく行ってない証拠であり、主の御心より自分の思い通りに、自分の力で生きている状態のサインではないでしょうか。まるで親と会話がない子供たちという親子の関係が形は持って中身は幸せじゃな

いと言う事と同じです。特に、祈らなければ、主の答えを頂くこともできないので、イエスキリストの御名にある力を実際自分が経験する事もできないのではないのでしょうか。常に祈らなければ、神の力が注がれていても神の答えだとすら、気づかないうちに流してしまう事をよくあるでしょう。なので、**祈りは信じている者たちだけが真に生きておられる全能の父なる神様にできる特権であり、祝福である事を忘れないようにしましょう。**

ですから、今日本文の主の弟子たちのように、**いつも祈る大切さ**についてはいくら強調しても足りないと思います。

祈りの習慣はとっても大切です。祈る親の子供たちは決して滅ばされないとよく言われます。これから年末年始改めて、まず親である私たちが祈りの習慣を身につけ、子供たちにも祈りの習慣を教えるようにしましょう。今年が終わる前に、ほんとうにイエスキリストを紹介してあげたい大切な人がいますか。いるのならその前、私たちはその人のためにまず祈りをもって備えていた時、イエスキリストの力が伴われると信じます。そして、年末、全家族が何よりも共に集まって感謝の祈りをささげる事はいかがでしょうか。(牧場での祈り大切さ、娘の証し内容:水曜祈り会の時に確信されたこと！)

②人々に憐れみを保ち、いかにイエスキリストの力ある御名が必要であるかを見通さなければなりません。

クリスチャンたちはこの世がいかにイエスキリストを必要としているのかを眼目(がんもく)を持たなければなりません。宮に祈るために行くペテロとヨハネは途中で足のきかないこのこじきに出会います。彼らにとっては祈りの時間を守ることが今優先で大切でしたが、彼らがこの人に目をそばめませんでした。むしろ彼のところにとどまって彼を見つめました。

4節を見ましょう。「**ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。**」

その時この人は何期待したでしょうか。ペテロとヨハネの見かけがみすぼらしく、あまりお金もないみたいなので、コインでもいくらかはくれるだろうと思ったかも知れません。しかし、みなさん、**ペテロとヨハネが彼にあげたのは物質ではなかったことに注目してください。**かりに私たちがこのような場合にあらわれたとすれば、もちろん物質的助ける事も最善をつくすべきだと思います。しかしペテロとヨハネはお金だけで、彼の根本的な必要が満たされるとは思いませんでした。一時期だけの助けにはなるお金以上の何かがか彼に必要であることを深く見つめていたのです。

どなたか**6節**を読んでくださいませんか。ペテロとヨハネは目の前の人を見ながら同じ考えをします。

「すると、ペテロは言った。「**金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。**」」**「私がこの人のためにやってあげられることは何か。私にある一番大切なもの！この人にとって一番必要なもの。不安定で、何の希望も見えないまま生きているこの人に一番力となれるもの。彼らは同じく自分たちが経験した“イエスキリストの御名”という答えを考えました。しかし、一日一日施しをもらって生活しているこの人が期待していたのは、ただの一食にでも買える金だったかも知れません。足のなえたこの人は自分自身さえも自分にキリストが必要であることを知りませんでした。しかし、弟子たちはわかっていました。イエスキリストの御名によって、イエスキリストの御名を頂き、受け入れることこそ、お金よりも、彼の絶望的な人生が必ず恵まれ、救われること！必ず今の人生の問題と苦しみから必ず解放され、回復されること！いかにおどるべき神の祝福を頂き人生が必ず変わるのかペテロとヨハネは知っていました。二人自身がイエスキリストによって神の愛と救いを、人生の回復と変化を体験したからよく知っていました！そのため、ペテロとヨハネは、イエスキリストを求めても、必要さも知らなかった彼に一番必要とされるイエスキリストの御名をプレゼントし、与えたわけ**あります！**そしたら、イエスキリストの御名は彼に奇跡を起こされました。イエスキリストの御名こそが根本的な問題を解してくださったのです。今日私たちも、関わる全ての人々に本当にイエスキリストが必要であるのを見て、確信しているのでしょうか。**

実は、我らが関わる人々にいかにイエスキリストの御名が絶対必要であるのかその確信や必要性を感じ、知らなければ、大胆にイエスキリストの御名を紹介することも、分かち合うことも、伝えることも出来ないかも知れません！

今日のペテロとヨハネのように、わたしとみなさんの中にすべて出会える、関わっている人々に対し、彼らは求めなくても、気づかなくても、みんなにイエスキリストが必ず必要であるその確信が改めて強められますように心から祈ります。

③私たちも弟子たちのようにキリストの御名によってともに一つとなり協力しなければなりません。

ペテロとヨハネと一緒に宮に上って行って、二人でペアになってイエスキリストの御名を与えました！**6節**に、「すると、ペテロは言った。「**金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。**」」そしたら、**7節-8節**では、たちまち美しの門という宮の門の前で生まれてから足のきかなかったその人のあしとくる

ぶしが強くなり、踊り上がってまっすぐに立ち、歩き出したのです。

「7そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、8踊(おど)り上がって立ち、歩き出した。そして、歩(ある)いたり、飛(と)び跳(は)ねたりしながら、神を賛美しつつ、二人と一緒に宮に入って行った。」

彼の人生に神の奇跡が起こり、一生病気に縛(しば)られていた彼がその病から解放され、救い出されました！

そして、彼の口から神を賛美しながら、神の宮の門の外の境界線に座り込んでいた彼がついに神の宮に入りました！

このように彼の人生が救われ、変えられたこの神の驚きの奇跡が起こされるために用いられた人たちがペテロとヨハネでした！この二人の協力し、主の御名を伝えた結果でありました。ここで大切に教えられることは何でしょうか。神は人類にすべての人生が救われる御名、その救いの御名、驚くべき神の力ある御名、神に祝福され人生が癒され、回復させる御名となるイエスキリストをすべてに与えて下さいましたが、いまだにその事実すら知らない多くの人々には、神は、ただ雄一の方法として、すでにそれを体験し信じている人々を通して伝えられ、与えられるようにさせて下さっていることです！神の御救いを、神の驚くべき恵みと力を、ペテロとヨハネのように、信じる人々を通して与えて下さっている真実を忘れてはいけません！

聖書の中、ペテロとヨハネは同じ町で一緒に育てられましたがとても対照的(たいしょうてき)な性格の人たちでした。以前ペテロはとっても短気で、積極的な人でした。いつも弟子たちの中でもリーダーになりたがった弟子でした。ですからペテロは十分考えずに先に言葉や行動に移してしまった結果過ちもたくさんありました。反面、ヨハネはとっても受身的な人でした。静かで、いつも落ち着いていました。ところが、この二人はライバル関係でもありました。どう見ても合わない二人でした。

ヨハネ福音書21章を見ると親しい関係でありながら、同時に競争意識も強かった二人でした。

そんな二人が今は使徒の働きでは二人が一つとなってイエスキリストの御名を伝えていたことが分かります。時には、ユダヤ教の人々や偶像崇拝をしていた人々から二人がともに迫害を受けたり、苦しみも一緒に受けたりもします。今日の本文で二人と一緒に祈りの同労者、福音の同労者となったいる姿あったことが分かります。

今日の聖書の時もきっとペテロは先にこの惨めな人を見て積極的にイエスの御名を伝えたには違いないと思います。そしてヨハネはきっとペテロのそばで、しずかにその魂のために祈ったかも知れません。‘神様！今ペテロを用いて下さい。イエスキリストの尊い御名に力を下さってそれを聞いているあの人の人生の中にも、臨在し、御手を差し伸べて、彼を癒し、回復し、変えられるように助けてください。’

いかにすばらしく美しい同労の姿でしょうか。私たちお互いの関係もただの交わり関係ではなくこのように祈りの友となり、福音の証し人の友として主の働きにともにする同労者の姿(今日例：予備牧者の弥生姉妹)にも、さらに変えられていかなければと願っております。私たちの教会にもこの信仰の同労者の関係が生かされる事を切に祈ります。

愛する主の教会の家族のみなさん！最後にこの話をして終わりたいと思います。以前みなさんに紹介した事がありますが、ローマのカトリック教会が盛んだ時、中世ローマカトリックは全ヨーロッパを支配した時がありました。当時教皇の権力は国の王よりも絶対できでした。その時、ある教皇が有名な信学者トマスアクィナスという人を皇室に招きました。彼は金で飾られた派手やかな教皇室と教会堂を見せながら、トマスにこう話します。“初代教会の時には金銀は私にはないが”と言ったのだが、“ほらトマス、今教会はこんなに大いに祝福され変わったぞ”これを聞いたトマスはこのような有名なこたえをしたそうです。“教皇様！しかし残念ながら今の教会には金銀は得たかも知れませんが、ナザレイエスキリストの御名によって歩きなさいという一番必要なイエスキリストの御名は見失ってしまっているではないでしょうか。”と指摘した有名な実話の話があります。真のイエスキリストの御名による信仰と御力が黄金によって真の教会の力さえ失ってしまい、墮落させてしまったと言ったトマス先生の警告を今日の教会たちも、私たちもいつも念頭に置くべきではないでしょうか。

今年 2021 年も後残りの年末にも、そして、これからまた新しく迎える新しい新年にも、私たちクリスチャンプレイズチャーチ全家族がもう一度力ある救い主イエスキリストの御名の力を信じ、頼りつつ、その御名によってさらに共に一つとなり、主イエスキリストの御名に頼り、共に祈って行きましょう。我らに与えられた力あるイエスキリストの御名を用いて、生かしてすばらしい神の恵みと愛の奇跡と祝福をさらに体験しつつ、またみなさんを通して、今日ペテロとヨハネのように周りに関わる人々にイエスキリストの御名が紹介され、分かち合われ、尊い人生が神の奇跡的な御力と愛より恵まれ、救われ、人生が変わって行く人々が一人でも起こされる神の奇跡と愛の管となるクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によって大いなる神の祝福を切に祈ります。アーメン！